

組織形態学的概要：多形腺腫の病理組織学的特徴から Epithelial pattern, Myoepithelial pattern, Myxoid pattern, Chondroid pattern に分けられる。Myoepithelial pattern における Myoepithelioma type は2例にのみ認められた。また Chondroid pattern は1例も認められなかった。

組織化学的検索； Epithelial pattern と Myoepithelioma type についてそれぞれ PTAH, Mayer's mucicarmine, Alcian-blue, Masson's Trichrom, PAS染色を行ったが両者は対照的な結果を示した。しかも Myoepithelioma type は Luna らの行った Myoepithelioma の組織化学的結果と類似していた。

考察：大唾液腺発生の多形腺腫の約半数に軟骨様構造がみられるとされているが Crocker らは小唾液腺発生のものでは軟骨様構造は稀であると述べており自験例でも全く認められなかった。筋上皮細胞が増殖しいわゆる myoepithelioma type を示すものが2症例みられた。これは組織化学的に Luna, Kahn らが報告している myoepithelioma と類似していた。Seldon および Shafer は多形性腺腫と myoepithelioma との密接な相互関係を示唆しているが、我々の結果からも同様のことが考えられた。

質問：佐藤 敏彦（歯科薬理）

① 電顕像1, 2のスライド中のマイクロフェラメントの有無意味づけにおいて御教示下さい。

② 小唾液腺と大唾液腺との相対比したものがあるれば更に親切的な気がします。

回答：竹下 信義（口腔病理）

固定状態が悪いので microfilament の判定には困難性があつたが細質内小器官の偏在性や filament の分布から筋上皮細胞にみられる microfilament と思われるが断定できなかった。

演題8 Str. mutans 分離培地の改良と臨床材料による検討

○ 本田 久子, 田所 志保子, 平田 佳子,
金子 克

岩手医科大学歯学部口腔微生物学講座

Str. mutans の分離培地として Gold 培地がよく用いられているが、Gold 培地中に発育する Oral streptococci の中から Str. mutans を選別することは容易なこととはいえない。こうした点からより確実に

Str. mutans を選別できる培地として Linke は MSFA 培地を発表した。私たちはこの培地を検討のうえ改良し歯垢からの分離を試みたので報告する。

MSFA 培地は Str. mutans の特異性である Mannit sorbit 分解性を定性し培地上で pink~red の特異的な色調をもつコロニーとして捕えるとうものであったが歯垢からの分離を試みるとこの特異的な色調は消失（退色）することがわかった。そこで MSFA 培地の組成中、主な栄養源として、Yeast extract 2% が含まれているが、これに Tryptone を加え、Yeast extract との含量比を検討し、Yeast extract 0.5%, tryptone 1.5% の培地で Str. mutans の最も特異的な色調をもつコロニーを観察できた。これを MSFA 変法培地とし、Gold 培地、MSFA 原法培地と共に歯垢からの Str. mutans 分離に応用した。前回は報告した様に Gold 培地、MSFA 原法培地より高い分離率を示した。さらに分離菌株を Shklar の方法で分類すると、Gold 培地で分離された株には a type, b type に属する株はなかったが、MSFA 培地では a type, b type も少数ながら分離された。MSFA 変法培地で a type 8.9%, 6.8%, b type 3.2%, 残り 81.9% が c type であった。MSFA 培地は Linke によって開発され、Str. mutans を Oral streptococci から識別する性質である mannit, sorbit 分解性を活かした点で Gold 培地に優る。しかし Linke の報告は標準株についてのみであったが私たちは変法培地をつくり、歯垢からの分離に応用できる成績を得ることができた。一方、Gold 培地では a type, b type が抑制され、分離できないといわれているが MSFA 変法培地で少数ながら分離できた。この事は分離方法の検討によって、Str. mutans の疫学的実態に幾分かの修正が加えられる事を示すものと考えられる。

質問：小川 邦明（県中病歯口外）

臨床的立場から材料はどこ場所から採取したか。また、う歯の状態はどうであったか。

回答：本田 寿子（口腔微生物）

① 歯垢の採取は臼歯頰側隣接面。

② う蝕の有無とは関係なく新患の小児について採取した。

演題9 Str. mutans 分離菌株の菌体凝集能欠損株についての研究

○ 田近 志保子, 本田 寿子, 平田 佳子,
金子 克